

**XKANSAI**

ソーシャルイノベーション・プログラム（第2期）

募集要領

一般社団法人うめきた未来イノベーション機構（U-FINO）

## **XKANSAI ソーシャルイノベーション・プログラム（第2期）募集要領**

### **プログラムの趣旨・目的**

本プログラムは、関西の社会課題解決と新産業・新規事業創出を目的とし、関西が国際的な社会課題解決事業を生み出すエリアとなることをめざしています。

うめきた2期をフィールドに、社会課題解決や新産業創出に向けて官民一体となって活動する **U-FINO** では、関西圏の企業、自治体・官公庁、金融機関、教育機関などが一体的に、そしてコレクティブ（集合的）に社会課題解決（社会的インパクト創出）に取り組む「**XKANSAI** ソーシャルイノベーション・プログラム」を **2024** 年に始動しました。

社会課題の解決と新産業・新規事業創出を両立するためには、民間企業と課題を抱える行政組織が有機的に共創することが重要です。本プログラムでは、行政組織が社会課題の本質的な問題点を提示した上で、民間企業から広く解決策（事業企画）の募集を行い、優れた解決策を表彰するとともに、社会実装に向けた支援を行います。

行政とともに社会課題解決（社会的インパクト創出）に取り組もうとする皆様のご参加をお待ちしています。

### **募集期間**

**2025年10月6日（月曜）～11月17日（月曜）18時【必着】**

### **募集対象・応募資格**

以下のいずれかの課題（テーマ）に該当する事業を対象とします。

ファイナリストに選出された場合、**2026**年1月30日（金曜）にうめきたエリアで開催する最終審査会（ピッチ審査）に、対面で参加いただくことが条件となります。

#### **テーマ① Green 「脱炭素・ごみゼロ」**

- ・ **A-1**：ごみの減量や資源循環等に関する事業提案
- ・ **A-2**：自治体の緑化事業の推進に資する事業提案
- ・ **A-3**：再生可能エネルギー/省エネルギーの更なる普及に資する事業提案

#### **テーマ② HealthCare：「健康・ヘルスケア」**

- ・ **B-1**：効果的な介護予防・健康づくりに関する事業提案
- ・ **B-2**：趣味や生きがいを持つことにつながる事業提案

#### **テーマ③ Resilience：「安心・安全なまちづくり」**

- ・ **C-1**：災害に対する住民の危機意識の向上につながる事業提案
- ・ **C-2**：地域コミュニティの担い手不足の解消に関する事業提案

テーマ（①Green、②HealthCare、③Resilience）に関する事業であれば、事業内容や事業規模、事業年数にかかわらず応募可能ですが、事業フェーズとしては、今後の事業開始や社会実装を見据えて、事業モデルの仮説検証もしくは実証実験やプロトタイピング等に取り組んでいることが望ましい。

※対象は法人に限ります（社団法人、合同会社を含む）。

※関西で事業活動を行っていること、または今後行う予定があること。

※一次審査（書類審査）を通過し、ファイナリストに選出された場合、最終審査会（2026年1月30日（予定）のピッチ審査）に、法人役員または提案事業の責任者が対面で参加できること。

※反社会的勢力でないこと、反社会的勢力との関係を有しないこと。

※上記に関わらず、主催者が不適切と認めた場合は、参加を取り消すことがあります。

## 提出書類・提出方法

- ・ 提案申請書（所定様式）A4
- ・ 補足資料（任意様式）A4・4枚以内
- ・ 提出期限：2025年11月17日（月曜）18時【必着】
- ・ 提出方法：下記のメールアドレスあてに、Eメールでご送付をお願いします。  
送付先：[info@u-fino.com](mailto:info@u-fino.com)（担当：森田）

## 審査スケジュール

### 1次審査（書類審査）

2025年12月5日（金曜）までに結果をご案内します。

※申請書に記載された連絡先にEメールで通知します。

※1次審査を通過した事業者に対して、2026年1月30日（金曜）（予定）の最終審査会への参加確認をさせて頂いた上で、ファイナリストとして選定します（8社程度を想定）。  
万一辞退される場合は12月9日（火曜）までに事務局へご連絡をお願いします（辞退者が出た場合、次点事業者を繰り上げ）。

※ファイナリストに選ばれた事業者は、一般社団法人うめきた未来イノベーション機構（U-FINO）ホームページやプレスリリース等で社名、提案事業名などを公開いたします。

### ファイナリストに対するメンタリング等

1次審査を通過されたファイナリストの事業者には、最終審査会でのピッチに向けたメンタリング等を行います。

2025年12月16日（火曜）の15時から17時に、グラングリーン大阪北館 JAM BASE  
において、ファイナリストの事業者、メンター、事務局メンバーとの顔合わせを予定して  
います。日程の確保をお願いいたします。

**2026**年1月**30**日(金曜)の最終審査会までに、メンターとの計**3**回(予定)のセッションを通じて、自治体との共創可能性を高める事業提案となるよう支援を行います。また、「脱炭素・ごみゼロ」または「健康・ヘルスケア」分野の提案に対しては、インパクトロジックモデルの作成支援も行います(ご希望の場合。作成したインパクトロジックモデルは、社会課題全体からみた「エコシステムマップ」への掲載を予定しています)。

(支援内容(計**3**回予定))

- ・第**1**回目：事業内容詳細のヒアリング、最終審査会までのメンタリングスケジュールの確認・調整。「脱炭素・ごみゼロ」または「健康・ヘルスケア」分野の提案でご希望の方には、インパクトロジックモデル作成に向けた事前説明等・)
- ・第**2**回目、**3**回目：ピッチ資料や内容に対する助言。「脱炭素・ごみゼロ」または「健康・ヘルスケア」分野の提案でご希望の方には、インパクトロジックモデル作成支援。)

最終審査会(ピッチ審査)

**2026**年1月**30**日(金曜)午後に、グラングリーン大阪北館**JAM BASE**において、最終審査会を実施します。最大**70**名程度の一般の方をオーディエンスとして迎える中での開催を予定しています。

最終審査会で各賞を決定し、入賞企業については表彰及びフォローアップ支援を行います。

**審査委員(予定)**

- ・委員長 一般社団法人うめきた未来イノベーション機構(代表理事または事業部長)
- ・委員 有識者**3**名程度

**審査基準**

- 1 本プログラムの趣旨、目的を理解し、関西圏の社会課題解決や多くの自治体が抱える地域課題解決の点で優れていること
- 2 事業モデルの新規性や革新性、優位性、成長性の観点で優れていること
- 3 事務局が提示する社会課題の本質的な問題点(**A-1**~**C-2**のいずれか)へのアプローチを意識し、課題構造のシステムチェンジにつながる提案であること
- 4 自治体への単なる営業目的ではなく、共創による事業開発・社会貢献・事例組成を目的とする事業を行おうとする提案であること

**参加費用等**

本プログラムの応募に関して費用はかかりません。ただし、応募にかかる通信費や、最終審査会への参加にかかる交通費等は提案者にご負担いただきます。

## 入賞企業への支援等（予定）

- 1 U-FINO ホームページ等での入賞企業の紹介
- 2 自治体との実証事業推進に向けたマッチング等の支援
- 3 自治体向けセミナー等でのピッチ登壇機会
- 4 「**XKANSAI** コミュニティ」※でのピッチ登壇機会  
※関西における社会課題解決に関心がある自治体、民間企業、金融機関、支援機関等の関係者が個人の立場で参加するコミュニティ
- 5 協賛(協力)企業・機関（五十音順）
  - ・池田泉州キャピタル株式会社
  - ・一般社団法人関西イノベーションセンター（**MUIC Kansai**）
  - ・一般社団法人コ・クリエーションジェネレーター（**CCG**）
  - ・三井住友海上火災保険株式会社
  - ・一般社団法人うめきた **MMO**

### （入賞企業への副賞）※

- ・ビジネスマッチング機会の提供、経営支援 など
- ・**JAM BASE** でのイベント利用権+**PR** 支援（最大1回）
- ・うめきた公園の一部を実証フィールドとして提供（最大1回[実施を希望する場合]、実施可能な企業数に制限有り）

※各副賞につきましては、入賞企業の製品・サービスの内容等により、ご提供できない場合がございます。

※都市公園であるうめきた公園は、法令や管理運営上の制限・ルール等が設けられており、実施内容・場所・期間等によってはご希望に沿えない場合（実施が認められないことも含む）がございますので、あらかじめご了承ください。

詳細につきましては、入賞決定後、実施を希望される場合は、ご希望の実証内容等を企画書としてご提出いただき、関係各所と確認・調整のうえ、実施可否をご連絡いたします。

## 知的財産権、個人情報の取り扱い

- 1 知的財産権の取り扱い
  - (1) 提案内容に関する著作権その他の知的財産権は応募者に帰属しますが、最終審査会には一般来場者も参加しますので、秘密事項の発表は避けるなど、ご注意ください。
  - (2) 提案内容は、第三者の著作権その他知的財産権を侵害していないものに限り、万が一、提案内容が第三者の権利を侵害している場合または侵害する恐れがあると主催者が判断した場合(応募後に侵害となった場合を含みます)、入賞特典等を取り消すことがあります。

## 2 個人情報等の取り扱い

- (1) エントリーシートに記載された個人情報及び提案内容に関する情報は、本プログラムを主催する一般社団法人うめきた未来イノベーション機構及び、企画運営を担う株式会社ソーシャル・エックスがそれぞれのプライバシーポリシーに則って、適切に扱います。また、これらの情報は、本プログラムの運営、審査、エントリーや結果通知等に関する連絡、マッチングや副賞提供の検討・調整等のための自治体や協賛(協力)企業・機関への提供、主催者及び企画運営者からの各種情報提供(Eメールでの事業案内含む)のために使用します。
- (2) 本人の同意なしに他の目的での利用及び第三者へ提供いたしません(ただし、法令に基づく場合は除きます。)
- (3) ご提出いただいたエントリーシート、補足資料は返却いたしません。

### 参考情報

**2024** 年度実施の第1期プログラムにおいては、1ヶ月間の公募期間中に **22** 社から応募がありました。ファイナリスト8社にピッチ登壇いただき、最終審査の結果、最優秀賞はエーテンラボ株式会社、優秀賞は **BIOTECHWORKS-H2** 株式会社、審査員特別賞は **BABY JOB** 株式会社が選ばれました。

参考 第1期プログラム：<https://u-fino.com/program/xkansai/>

### 事業運営体制

主催：一般社団法人うめきた未来イノベーション機構 (U-FINO)

企画運営：株式会社ソーシャル・エックス

以上

XKANSAI ソーシャルイノベーション・プログラム（第2期）

# 募集課題（テーマ）

## ● 脱炭素/ごみゼロ分野の募集課題について

めざす社会的インパクト：温暖化の抑制

自治体が抱えているペイン：気候変動による住民の暮らしにくさ、ごみ処理コストの上昇による財政の悪化

めざす社会的インパクトを実現し、自治体が抱えるペインを解消するために、民間企業から募集する新規事業テーマ

No	募集事業	自治体がありたい姿	課題内容と提案のポイント	課題の共通性 (インパクト市場の大きさ)
A-1	ごみの減量や資源循環等に関する事業提案	ごみの減量や有効活用により循環型社会を実現している	<p><b>【課題内容】</b>            フードロス対策は進みつつありますが、生ゴミの廃棄量は未だに多い状況です。また、ごみの分別が十分でない場合には、収集後の追加分別に伴う負担の発生や資源ごみが十分再利用されない状況を招きます。その結果、処理コストや処理施設の故障リスク、修繕費用が増加し、自治体財政の悪化にもつながります。持続可能な地域づくりのために、ごみの発生抑制・資源循環を進めるとともに、その背景にある「ごみを減らさなくても、生活に直接困ることはない」という考え方を見直す取り組みが必要です。</p> <p><b>【提案のポイント】</b>            こうした状況から、例えば、以下のような視点を踏まえた新たな施策等に関する提案を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 家庭や事業所から出るごみを削減する新たな仕組みやサービス（住民や事業者の意識変革を促す取り組みを含む）</li> <li>✓ リユース・リサイクルを促進する循環型のビジネスモデル</li> <li>✓ ごみ処理や、リユース・リサイクル等3Rの効果が可視化される取り組み</li> <li>✓ 環境意識の向上と地域経済の活性化を両立する取り組み など</li> </ul>	<p>★★★★★            課題の自治体共通性は高い</p>

No	募集事業	自治体がありたい姿	課題内容と提案のポイント	課題の共通性 (インパクト市場の大きさ)
A-2	自治体の緑化事業の推進に資する事業提案	CO2の削減とともに、地域活性化などを同時に実現している	<p>【課題内容】</p> <p>緑地・藻場の減少は、CO2の削減が進まない一つの要因であり、気温上昇や自然災害の増加、景観悪化による居住満足度の低下など、生活面や環境面におけるリスク拡大につながります。</p> <p>こうしたことは、自治体にとっては人口流出につながる要因ともなり得る一方で、緑の多い、自然豊かな環境を実現していくことは、地域の魅力向上にも結びつきます。しかし、緑化対策は維持管理の負担（労力・コスト等）が大きく、極力負担を抑えた新たな手法等が必要と考えています。</p> <p>【提案のポイント】</p> <p>こうした状況から、例えば、以下のような視点を踏まえた新たな緑化施策等に関する提案を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 身近に緑（緑地や藻場、公園）がある安心で快適な暮らしの実現</li> <li>✓ 遊休地や竹林などを地域の価値として再生する方法</li> <li>✓ メンテナンスも含めて緑化対策の負担が少なく持続的に運営できる仕組み など</li> </ul>	<p>★★★</p> <p>課題の自治体共通性がある</p>
A-3	再生可能エネルギー/省エネルギーの更なる普及に資する事業提案	再生可能エネルギー/省エネルギーを使用する人が増え、CO2の排出量が減る社会を実現	<p>【課題内容】</p> <p>中長期的には気候変動は消費や生活スタイルに多大な影響を及ぼすにもかかわらず、化石燃料を中心とした消費・生活スタイルから、再生可能エネルギーへの転換は十分に進んでいるとは言えない状況です。その要因は、転換コストの高さや安定供給に課題があることに加え、そもそも再生可能エネルギーの普及が、中長期的に自分たちや次世代の生活にも大きな影響を及ぼすことが実感として認識されていないことにあると考えられます。</p>	<p>★★★★</p> <p>課題の自治体共通性は高い</p>

また、世界的には、パソコンやモバイル機器、自動車の個人利用の拡大、データセンターの増設、AIの普及などによりエネルギー需要が一層増加すると見込まれる分野もあります。

**GX**、クリーンテックをさらに推進し、**CO2**の削減に取り組むことが必要と考えています。

**【提案のポイント】**

こうした状況から、例えば、以下のような視点を踏まえた新たな再生可能エネルギーの普及施策等に関する提案を求めます。

- ✔ 新しい技術やノウハウを用いた省エネルギー・再生可能エネルギーの一層の推進
- ✔ 再生可能エネルギーの安定供給に貢献するビジネス
- ✔ 再生可能エネルギーや省エネルギーの促進につながる教育プログラムや、社会全体の価値観転換をめざす事業
- ✔ スマートメーターやAI等によるエネルギー利用の最適化など、デジタル技術を活用した「見える化」による行動変容を促す事業

## ● 健康・ヘルスケア分野の募集課題について

めざす社会的インパクト：健康寿命を伸ばす

自治体が抱えているペイン：住民の健康状態の悪化や要介護者の増加、医療費や介護保険料の増加による財政の悪化

めざす社会的インパクトを実現し、自治体が抱えるペインを解消するために、民間企業から募集する新規事業テーマ

No	募集事業	自治体がありたい姿	課題内容と提案のポイント	課題の共通性 (インパクト市場の大きさ)
B-1	効果的な介護予防・健康づくりに関する事業提案	効果的な介護予防・健康づくり施策の展開により、住民の生活習慣や運動習慣等が改善され、年齢を重ねても良好な健康状態が維持されている	<p><b>【課題内容】</b></p> <p>自治体では様々な介護予防や健康づくりに向けた事業を実施していますが、地域との関わりが薄い住民には十分に届いていないことや、誰もが参加しやすい工夫や魅力的なコンテンツの不足等により、参加者層に偏りが生じています。また、コミュニティの担い手の減少等により、コミュニティに依存する運営には、持続性に課題を感じています。</p> <p>一方、高齢者だけでなく若いうちから適切な生活・運動習慣を持つことも重要です。しかし、若年層への効果的な情報発信や行動促進の仕組みは確立されておらず、世代を超えた予防意識の醸成等も考えていく必要があります。</p> <p><b>【提案のポイント】</b></p> <p>こうした状況から、例えば、以下のような視点を踏まえた効果的な予防施策等に関する提案を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✔ 多様な住民が参加したくなる、参加のハードルが下がる仕組み</li> <li>✔ 参加につながる効果的な動機付け(現在/将来の健康状態が容易に把握でき、改善に必要な行動が促される等)</li> <li>✔ 単発で終わらず継続を促す工夫(楽しさ、仲間づくり、効果の可視化等)</li> <li>✔ 健康状態や生活状況に応じて適切なプログラムを提示・誘導できる仕組み</li> <li>✔ 世代に合わせた適切な情報・サービス提供の工夫(デジタル/アナログ)</li> <li>✔ コミュニティに過度に依存しない持続可能な運営モデル など</li> </ul>	<p>★★★★★</p> <p>ほとんどの自治体が抱えている課題</p>

No	募集事業	自治体がありたい姿	課題内容と提案のポイント	課題の共通性 (インパクト市場の大きさ)
B-2	趣味や生きがいを持つことにつながる事業提案	趣味や生きがいを通じて、社会的孤立の防止や心身の健康を維持・向上できる環境が整っていること	<p><b>【課題内容】</b></p> <p>子育ての終了や退職など、生活環境の変化をきっかけに、外出の減少や人との関わりが希薄になることで、運動不足やメンタルヘルスの低下につながるケースがあります。特に、現役時代に仕事中心の生活を送ってきた方は、社会参加が減少し、定年後に孤立しやすい傾向があります。</p> <p>一方で、地域活動やコミュニティは、初めての人にとって参加のハードルが高い、自分に合った活動情報にアクセスしづらいといった課題があります。また、身体の健康だけでなく、心の健康にも目を向けた場合、必ずしも外出を伴わない趣味や生きがいの多様な選択肢や、それを楽しみながら継続できる仕掛けも必要と考えられます。</p> <p><b>【提案のポイント】</b></p> <p>こうした背景から、例えば、以下のような視点を踏まえた、趣味や生きがいを持つことにつながる事業提案を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✔ 興味・関心に応じて、地域のコミュニティやイベント等が簡単に見つかり、できれば参加もサポート（コンシェルジュのような機能）</li> <li>✔ 一人でも参加しやすく、心理的ハードルを下げる工夫</li> <li>✔ 楽しさや仲間との関わり等を通じて、継続的な参加を促す仕掛け</li> </ul>	<p>★★★</p> <p>課題の自治体共通性がある</p>

● 安心・安全なまちづくり分野の募集課題について

めざす社会的インパクト：災害に強いまちづくり、地域コミュニティ/自治会（以後、コミュニティ）の維持・活性化  
自治体が抱えているペイン：まちの魅力の低下、人口流出、自治体財政の圧迫、災害発生時の被害の増大

めざす社会的インパクトを実現し、自治体が抱えるペインを解消するために、民間企業から募集する新規事業テーマ

No	募集事業	自治体がありたい姿	課題内容と提案のポイント	課題の共通性 (インパクト市場の大きさ)
C-1	災害に対する住民の危機意識の向上につながる事業提案	住民の災害に対する危機意識が向上し、地域・個人（各世帯）ひいてはまちの災害対策が進んでいる	<p><b>【課題内容】</b> 住民の災害に対する危機意識は、災害対策を進めるうえで重要な要素ですが、住民にとって平時に災害リスクを意識しづらいこと、まちの防災計画が抽象的な場合や仮に具体的であってもその内容が普及していない場合、災害対策として何をすればいいかわからないこと、自助・共助に対する意識の世代・世帯間で差があることなどが、災害に対する危機意識が高まらない状況を招きます。これにより、災害対策が行政任せとなり、まちの災害対策が進みにくくなっています。</p> <p><b>【提案のポイント】</b> こうした背景から、例えば、以下のような視点を踏まえた、住民の災害に対する危機意識の向上につながる提案を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 防災計画の具体化や普及、住民の災害対策への理解を促す工夫</li> <li>✓ 共助・自助の意識が低い層に対して働きかける、もしくは低くても有事に行動を取ることができるような仕組み</li> <li>✓ 住民が平時に災害リスクを考え、災害に対する危機意識を高めるきっかけとなる・持続させる機会の創出</li> </ul>	<p>★★★★★ 課題の自治体共通性は高い</p>

No	募集事業	自治体がありたい姿	課題内容と提案のポイント	課題の共通性 (インパクト市場の大きさ)
C-2	地域コミュニティの担い手不足の解消に関する事業提案	コミュニティの担い手の不在/不足を解消することで、コミュニティの維持・活性化や魅力的なコミュニティづくりが進み、まち全体の魅力や個性が高まっている	<p><b>【課題内容】</b></p> <p>魅力的なコミュニティは、まち自体の魅力・特色につながり、住民の満足度向上や人口流出の防止に寄与します。一方で、コミュニティの担い手不足や地域交流の希薄化により、コミュニティの維持・活性化が困難となり、その魅力の低下を招きます。さらに、コミュニティの運営業務が属人的となり担い手に過度な負担がかかると、魅力の低下と相まって、担い手になろうとする意欲の低下につながります。このため、コミュニティ運営における担い手不足への対策が必要です。</p> <p><b>【提案のポイント】</b></p> <p>こうした状況から、例えば、以下のような視点を踏まえた、コミュニティの担い手不在/不足の解消につながる事業提案を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✔ 担い手/参加者双方にとって魅力的なコミュニティとする（コミュニティ魅力を向上させる）ための仕掛けやコンテンツ</li> <li>✔ 担い手にとって運営業務の負担軽減につながる工夫</li> <li>✔ 住民が担い手になろうと思う効果的な動機づけ</li> </ul>	<p>★★★★★</p> <p>ほとんどの自治体が抱えている課題</p>

## 募集課題（テーマ）の選定について

「**JKANSAI** ソーシャルイノベーション・プログラム（第2期）」では、民間企業が自社のリソースやテクノロジー、知見を活用・応用して、社会課題解決や社会的インパクトを生み出しつつ、イノベティブなサービスの創造や新規事業の開発・展開がなされることをめざしています。中でも、社会課題解決や社会的インパクトの創出のために、課題の現場を多く抱える自治体が民間企業と連携していくことがとても大切だと考えています。

民間企業が有する経営資源にも限りがあることから、闇雲に自治体の課題を提示して民間企業から解決策を募集することは社会課題解決のためには非効率であると考えました。そうしたことから、本プログラムでは、「脱炭素/ごみゼロ」「健康・ヘルスケア」「安心なまちづくり」という3つの社会課題（テーマ）を選び、その3つのテーマごとに、「システムとして何が本質的に問題になっているのか」を本年7月以降、関西圏の自治体の参画・協力を得ながら構造的な把握・分析等を進めました。

大阪、京都、兵庫、滋賀、鳥取など、広域・基礎自治体や行政機関職員の参画を得てワークショップを行い、次ページ以降にある社会構造マップとして整理するとともに、そのマップ内において自治体が真に困っていることは何か、またその社会課題全体を好転させる「本質的で根本的な問題点・要素」について議論を重ねました。システム思考において、その社会課題全体に好影響を与える「本質的で根本的な問題点・要素」のことを「レバレッジ・ポイント」と呼びます。自治体が抱える課題解決にもつながる「レバレッジ・ポイント」を7点抽出し、本プログラムにおける「募集課題（テーマ）」としました。（前ページまでに掲載）

今回、民間企業から自社のリソースやテクノロジー、知見を用いた新規性が高い事業企画を募集します。

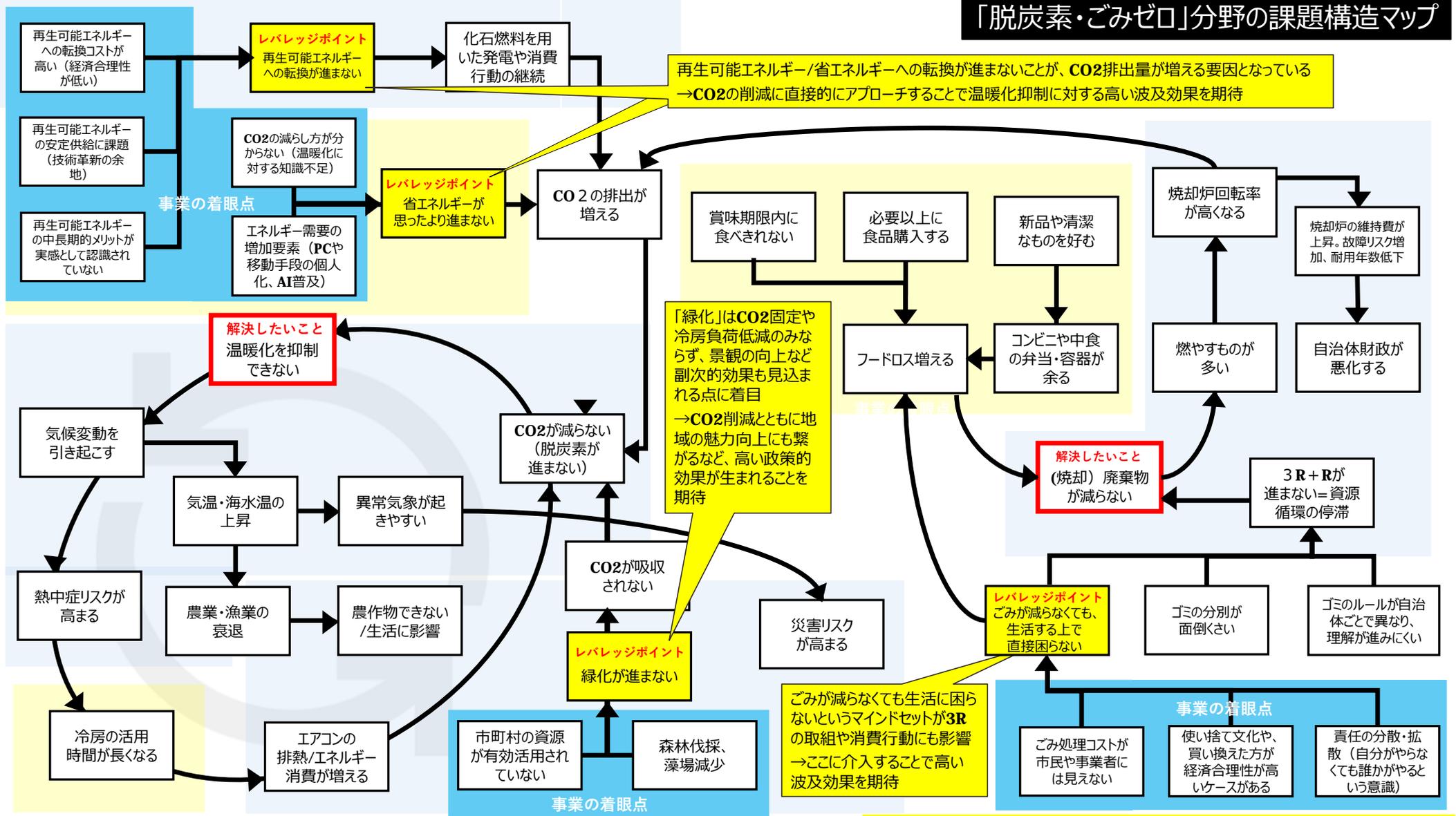
なお、課題構造やレバレッジ・ポイントの設定（募集課題選定）のプロセスで現場の課題を抱えている関西圏の大小の自治体職員の協力を得ていることから、単なるアイデアレベルのものではなく、実証事業を伴うような事業企画であれば、本プログラムにおける各賞受賞の可能性も高くなり、また実際に事業企画の実証につながったり、関係機関からの支援を受けやすくなると考えています。

今年度の第2期プログラムでは、ファイナリスト選定企業へのメンタリング支援や受賞企業への主催者及び協賛企業等からのサポートもご用意しております。社会課題を根本から解決するための、新たな事業の応募をお待ちしています。



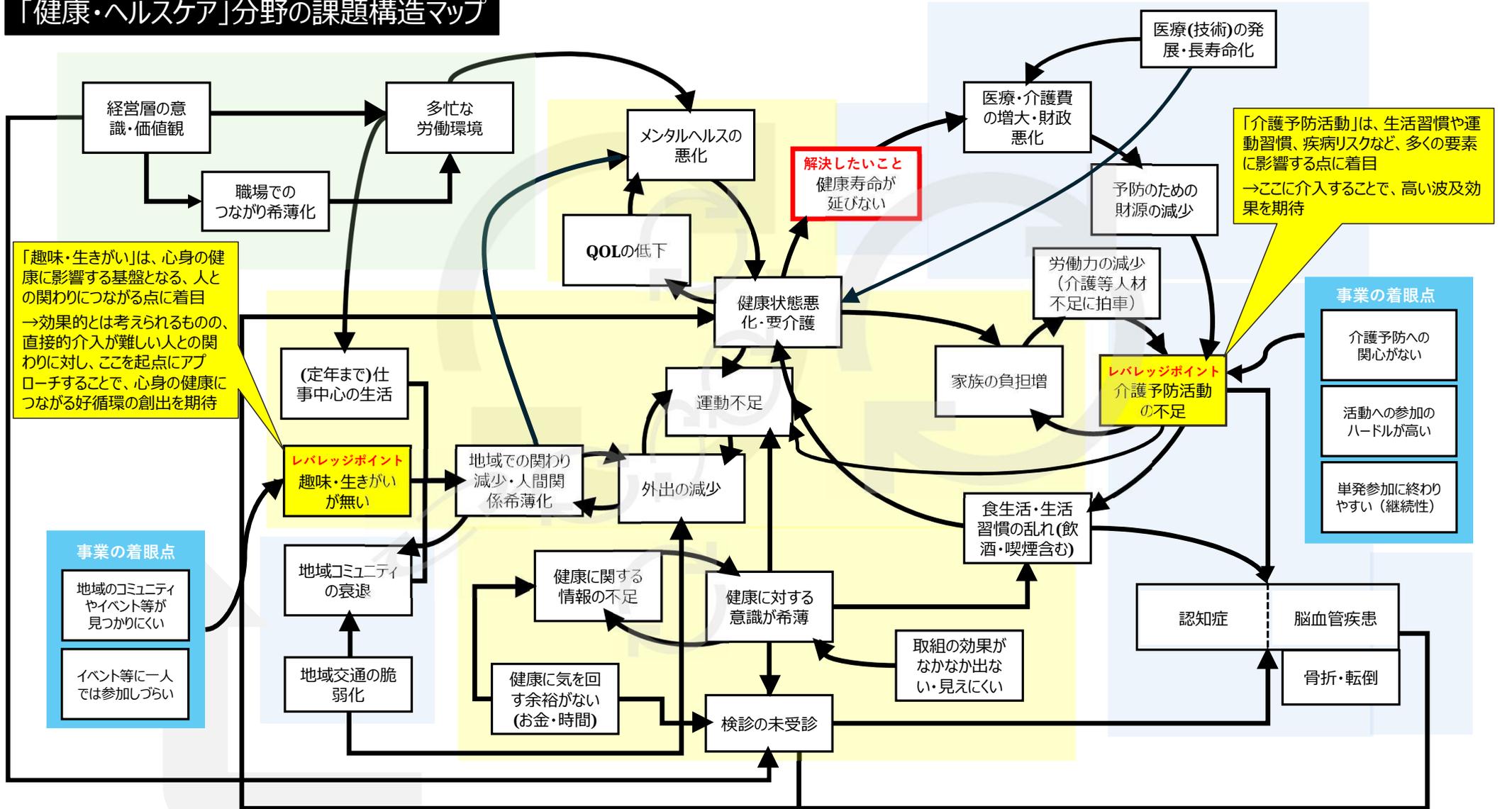
本年7月に行政の皆さんと共に課題構造化とレバレッジ・ポイントの設定を行いました

# 「脱炭素・ごみゼロ」分野の課題構造マップ



レバレッジポイント：システムの中で、少ないリソースでより大きく持続的な成果をもたらす介入ポイント

# 「健康・ヘルスケア」分野の課題構造マップ



「趣味・生きがい」は、心身の健康に影響する基盤となる、人との関わりにつながる点に着目  
→効果的とは考えられるものの、直接的介入が難しい人との関わりに対し、ここを起点にアプローチすることで、心身の健康につながる好循環の創出を期待

「介護予防活動」は、生活習慣や運動習慣、疾病リスクなど、多くの要素に影響する点に着目  
→ここに介入することで、高い波及効果を期待

**事業の着眼点**

- 地域のコミュニティやイベント等が見つかりにくい
- イベント等に一人では参加しづらい

**事業の着眼点**

- 介護予防への関心がない
- 活動への参加のハードルが高い
- 単発参加に終わりがち(継続性)

レバレッジポイント：システムの中で、少ないリソースでより大きく持続的な成果をもたらす介入ポイント

